

保護者の皆様

昭島市立富士見丘小学校
校長 稲垣 達也

カーナビは、私たちに何をもたらしたか

42日間の長〜い夏休みが始まりました。『休暇中の心得』と題して、毎年のように校長だよりに掲載してきた「大正11年の二宮尋常小学校（神戸）“夏休みのお知らせ”」を、今年はこちらに紹介します。

- いよいよ楽しい夏休みがきた。悪いことさえしなければ、何をして暮らしてもよい。
- うんと遊んで、勉強をしてみたくなくなった時は、おさらい（復習）をするがよい。
- 野にも、山にも、川にも、海にも、その他どこに行っても、勉強の材料がたくさんある。それらについて調べてみるのが本当の勉強である。
- 手工の自由製作をしたり、玩具を工夫してこしらえたりすることは面白いことである。
- 植物を栽培したり、押し葉をこしらえたり、動物を飼育したりすることも良い作業である。
- 種々の品物について、その製作順序を調べたり、原料を集めたり、物価表をこしらえたりすることも有益なことである。
- 旅行をした時は、その地方の産物や絵葉書などを集めたりするがよい。
- 夏休みは良き芸術に触れ、良き本を読むための最もよい時間である。
- 休み中調べた事柄や、製作した物や、集めた物などは、大切に残しておいて、夏休み後、学校で開かれる陳列会に出品し合うのは楽しいことである。
- 登山をしたり、水泳に行ったり、遠足をしたりして、体を鍛えることも良いことである。
- 綴り方（作文）の良い材料をよく見つけておくことも忘れてはならぬ。
- 綴ってみたくなくなったら綴るがよい。

百年以上も前の「心得」ですが、一文一文が心に染みます。百年前の子供たちと、今の子供たちと、何ら変わりません。それは、たぶん、いいことだと思います。

さて、大人の夏休みはどうでしょう？ 表題にある「カーナビ」について、昨日の校長だよりに書きました。「携帯電話」と「スマホ」についても、書き加えます。

〔カーナビがなかった時代は…〕

出かけるとき：紙の地図を広げる。→ 縮尺の異なる地図を頭の中で重ねながら、大体の距離や方向を確認する。→ 途中で立ち寄る場所や休憩など含めて、最適なルートを決め、所要時間を推測する。→ 標識等の様々な情報から、走行中の位置を認識しながら走る。→ ラジオで渋滞情報を聞いて、助手席の人が地図を見てナビをしたり、相談したり、時には口論しつつ、ルートを修正しながら走る。



〔携帯電話がなかった時代は…〕

待ち合わせるとき：事前に日時や場所等を約束する。→ そのためにはお互いが知っている場所や分かりやすい場所を選ぶ。→ 遅れそうになった場合の連絡手段を確認する。→ 遅れないように行動する。→ 相手が遅れてもイライラせずに気長に待つ。



〔スマホがなかった時代は…〕

家族で食事中にお父さんが子供から社会的な事象を質問された時：今までの経験や知識を駆使して質問にわかりやすく答えようとする。→ まったくわからない場合は、妻に質問して、どう？と聞く。→ それでも的確に答えられない場合は、どう思うの？と子供に質問を返す。→ で、家族総動員で、ああでもない、こうでもない、と話が弾む。



この三つの事例の共通点は、日常生活の様々な場に、「課題解決の場」があふれていたということです。

いずれの場面でも言語能力（論理的思考、コミュニケーション、感性・情緒としての言葉の力）、情報活用能力（情報モラルを含む情報リテラシー）、課題解決力（その先の探究力）などが不可欠でした。相手を相手への思いや心のゆとり、寛容な気持ちもなども、とても大切にしていたと思います。

「課題解決」の場が生活の中にあふれており、日常的に様々な課題に向き合い、解決していたのです。

しかし、今では…

カーナビがあれば、行先を入力するだけで、すべてが解決です。近い未来、行先を言えば、車が自動運転で連れて行ってくれるでしょう。交通事故もゼロになるかもしれません。

携帯電話があれば、いつでもリアルタイムに連絡が取れます。事前に詳細な確認や打ち合わせをしなくても大丈夫です。すれ違って心配いりません。

スマホがあれば、ググっておしまい。ググって解決です。今日の夕飯のメニューも、作り方も、何も悩むことはありません。栄養管理も完璧です。

さてさて、そうして育った子供たちは、将来、どんな大人になるのでしょうか？ どんな社会を作っていくのでしょうか？ すべてA I（人工知能）におまかせ？ で、OK？

I C Tは、子供たちの思考力や創造力、思いやり、モラルを奪う道具ではありません。

本校では、【ふじみ GIGA School スマート・ツール】と題して、I C Tの利便性に依存することなく“道具”として使いこなしています。

1人1台端末を、教員は“賢い教具”として指導に活用し、子供たちは“賢い文房具”として、主体的・協働的で深い「学びの道具として」役立てています。

昨年度からは、昭島市教育委員会の研究奨励校として、『創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く児童の育成』を主題として、「情報活用能力・言語能力・課題解決能力を働かせた探究的な学び」を重点とした教育を展開しています。

教育の情報化が進展していく中で、初等教育段階の子供たちの健全な発達の上で、デジタルとアナログの特性を踏まえた効果的な教育活動を行うことが大切です。ネット依存の危険性を考慮するとともに、情報モラル教育を推進しながら、ICTを適切に活用する力を育んでいく所存です。